

製品名: COX11 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09266**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	31kDa

抗原情報

遺伝子名	COX11
別名	COX11; Cytochrome c oxidase assembly protein COX11; mitochondrial
遺伝子 ID	1353.0
SwissProt ID	Q9Y6N1
免疫原	抗血清はヒト COX11 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 51-100

背景

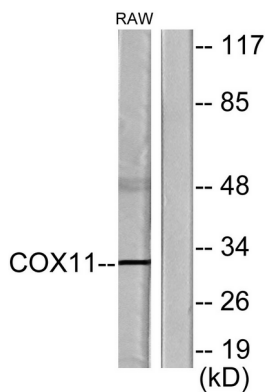
ミトコンドリア呼吸鎖の末端成分であるシトクロム c 酸化酵素 (COX) は、還元されたシトクロム c から酸素への電子伝達を触媒します。この成分は、ミトコンドリア遺伝子によってコードされる 3 つの触媒サブユニットと、核遺伝子によってコードされる複数の

構造サブユニットからなるヘテロ多量体複合体です。ミトコンドリアにコードされるサブユニットは電子伝達に機能し、核にコードされるサブユニットは複合体の調節と組み立てに機能する可能性があります。この核遺伝子は、構造サブユニットではないタンパク質をコードしていますが、酵母変異体の研究によると、COX の形成に関与するヘム A 生合成酵素である可能性があります。しかし、*Rhodobacter sphaeroides* での研究では、この遺伝子はヘム A 生合成には必須ではありませんが、COX の Cu(B) およびマグネシウム中心の安定した形成に必須であることが示唆されています。このヒトタンパク質は、次のような作用を示すと予測されています。機能:シトクロム c オキシダーゼ合成の最終段階で効果を発揮し、おそらくサブユニット I への銅 B の挿入に関与します。類似性:COX11/ctaG ファミリーに属します。サブユニット:CNNM4/ACDP4 と相互作用します。組織特異性:普遍的です。

研究分野

酸化的リン酸化;

画像データ



COX11 抗体を用いた RAW264.7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。